

7 5 期国語総合 【古典】 第一回授業 指示

※はじめに、配布したプリントについて訂正があります。

プリント番号⑧別紙 A 「A-1 古語動詞攻略プリント」◇限定語を覚えよう！

下一段活用「蹴」→「蹴る」

プリント番号⑨別紙 B 「B-1 用言の特訓！」

・「破る」について

う行下二段活用のほか、う行四段活用も可。

プリント番号⑩別紙 B 「B-2 用言の特訓！」

・「美し」「同じ」「涼し」「いみじ」「をかし」「楽し」「悲し」「恋し」について

終止形の欄が「し<」→「し」

形容詞はク活用・シク活用ともに、**終止形は「し」**です。

・「恨む」について

マ行上二段活用のほか、マ行四段活用も可。

プリント番号なし別紙 C 「絵仏師良秀～用言対策プリント～」

「あさまし」「悪しについて

終止形の欄が「し<」→「し」

上記訂正箇所について、各自赤ペンで修正願います。混乱させてしまい、申し訳ありません。

【授業指示】

✿プリント番号②・③（用言の手前まで）、及び動画を視聴し、ガイダンスを受けなさい。

→ガイダンス動画 <https://youtu.be/JTBQgXLZPsA>

✿春休み課題 確認テストを受けなさい。

→テストの受け方：古典のノートが一番最初のページに解答し、自己採点する。学校再開後、提出する。

自宅で PDF を印刷できる者は、印刷したプリントに直接書き込んで良い。

提出の指示があるまで保管しておくこと。

古典文法 春休み課題小テスト

一年（ ）組（ ）番 名前（ ）

得点
／ 20

1 次の古語を現代仮名遣いに直してひらがなで記せ。

① ある（居る）

② こゑ（声）

③ さうぞく（装束）

④ いうげん（幽玄）

⑤ くわんげん（管弦）

2 次の文に「」を書き込み、文節に分けよ。

音には聞けどもいまだ見ぬなり。

3 次の文に「」を書き込み、単語に分けよ。

むすめはさらに聞かず。

4 次の文の傍線部①～③の単語は、a「自立語」か、b「付属語」か、記号で答えよ。

野山にまじりて竹を①取りつつ、②よつゝのことに使ひ③けり。

①
②
③

5 次の品詞分類表の空欄①～⑤にふさわしい文法用語を入れよ。

付 属 語		自 立 語					語		
活用しない	活用する	活用しない					活用する		
		独立語となる	接続語となる	（④）となる	連用修飾語となる	主語となることができる――（体言）	述語となることができる――（①）		
							言い切りの語尾が「なり」「たり」で終わる	言い切りの語尾が「し」「じ」で終わる	言い切りの語尾が「う」段で終わる（ラ変は「り」）
助詞	（⑤）	感動詞	接続詞	連体詞	（③）	名詞	形容動詞	（②）	動詞

④	①
⑤	②
	③

6 次の文章の中から動詞を五つ指摘し、傍線を付けよ。（設問の都合上、本文を改めた箇所がある）

冬はつとめて。雪の降りたるは、言ふべきにもあらず、霜のいと白きも、いと寒きに、火など急ぎおこして、炭もて渡るも、いとつきづきし。

古典文法 春休み課題小テスト

一年（ ）組（ ）番 名前（ ）

得点
/ 20

1 次の古語を現代仮名遣いに直してひらがなで記せ。

- ① ある（居る）
② こゑ（声）
③ さうぞく（装束）
④ いうげん（幽玄）
⑤ くわんげん（管弦）

⑤	④	③	②	①
かんげん	ゆうげん	そうぞく	こゑ	いる

2 次の文に「一」を書き込み、文節に分けよ。

音には一聞けどもいまだ一見ぬなり。

3 次の文に「一」を書き込み、単語に分けよ。

むすめは一さらに一聞かず。

4 次の文の傍線部①～③の単語は、a「自立語」か、b「付属語」か、記号で答えよ。

野山にまじりて竹を②取りつつ、②よろづのことに使ひ③けり。

①	a	②	a	③	b
---	---	---	---	---	---

5 次の品詞分類表の空欄①～⑤にふさわしい文法用語を入れよ。

付 属 語		自 立 語							
活用しない	活用する	活用しない					活用する		
		独立語となる	接続語となる	（④）となる	連用修飾語となる	主語となることができる――（体言）	述語となることができる――（①）		
							言い切りの語尾が「なり」「たり」で終わる	言い切りの語尾が「し」「じ」で終わる	言い切りの語尾が「う」段で終わる（ラ変は「り」）
助詞	（⑤）	感動詞	接続詞	連体詞	（③）	名詞	形容動詞	（②）	動詞

④	①	⑤	②	③
連体修飾語	用言	助動詞	形容詞	副詞

6 次の文章の中から動詞を五つ指摘し、傍線を付けよ。（設問の都合上、本文を改めた箇所がある）

冬はつとめて。雪の降りたるは、言ふべきにもあらず、霜のいと白きも、いと寒きに、火など急ぎおこして、炭もて渡るも、いとつきづきし。